

NEWS RELEASE

POLA MUSEUM ANNEX

PO22R030

2010年4月13日

骨董の魅力を探り、物を見る目を養う 「桐島洋子 骨董物語」展を7月10日(土)から開催

ポーラ ミュージアム アネックス (中央区銀座1丁目) では、2010年7月10日(土)から8月22日(日)までの会期で「桐島洋子 骨董物語」展を開催いたします。

作家の桐島洋子氏は、50歳を過ぎて人生の残り時間を意識し始めた頃から、時間が幾重にも層を成し、濃密に結晶化した「骨董」の魅力にのめり込んでいきました。

本展は、桐島氏自身の磨き抜かれた美意識と、そして重からぬ財布と軽やかなフットワークだけを頼みに収集した東西の貴重な骨董品の数々を展示します。また、それぞれの骨董品がたどってきた歴史や様々なドラマをあわせてご紹介します。骨董品の見た目の美しさだけではなく、その物の持つ物語に耳を傾けることにより、骨董の魅力を探ります。

桐島洋子氏のコレクションを通じて、氏の「美」に対する思いや考え方などを学び取り、「物」を見る目の確かさを養える展覧会です。



キリの洞窟・グラスルーム

撮影/久間昌史

『骨董物語』(講談社刊)より

|| 展覧会概要 ||

展覧会名	「桐島洋子 骨董物語」展
会期	2010年7月10日(土) - 8月22日(日) * 会期中無休
会場	ポーラ ミュージアム アネックス 〒104-0061 中央区銀座1-7-7 ポーラ銀座ビル3階
アクセス	東京メトロ 銀座駅 A9番出口から徒歩6分 東京メトロ 銀座一丁目駅 7番出口すぐ JR 有楽町駅 京橋口改札口徒歩5分
主催	株式会社ポーラ・オルビスホールディングス
開館時間	11:00 - 20:00 (入場は19:30まで)
入場料	無料

【リリースに関するお問い合わせ】株式会社ポーラ・オルビスホールディングス グループ広報室

TEL 03-3563-5540 / FAX 03-3563-5543

【お客さまからのお問い合わせ先】ポーラ ミュージアム アネックス TEL 03-3563-5501

私が骨董蒐集を始めたのは、ようやく子育てを終えた五十代、つまり自分が骨董の仲間入りを始めた頃である。エイジング、すなわち人生の熟成は神の祝福だと思っている私にとって、歳経るほどに輝きを増し、味わいを深める骨董との付き合いは何よりの励みになる。

隙間産業というのがあるが、私はさしずめ隙間コレクターだろう。富も権威もコネクションも縁のないしがない物書きが、美術館や富豪に対抗できるはずもないから、ひたすら眼を瞪り直感を研ぎ澄まし、地を這うようにして落ち穂拾いを楽しんで来た。どんなにささやかな骨董も、人生と同じように飽きることのない物語の結晶なのだ。

桐島洋子

|| 作家略歴 ||

桐島 洋子(きりしま ようこ)

1937年東京生まれ。1956年から文藝春秋に勤務、1964年からフリーライターとして海外各地を放浪。1972年に「淋しいアメリカ人」で第3回大宅壮一ノンフィクション賞受賞。クリスマスに日本へ戻る客船上で、次女ノエルさんを産んだエピソードは有名。

著書は「わが愛の航海記」との副題を持つ「渚と滯と舵」(文集文庫)、「マザー・グースと三匹の子豚たち」(グラフィック社)、「残り時間には福がある」(海竜社)など多数。



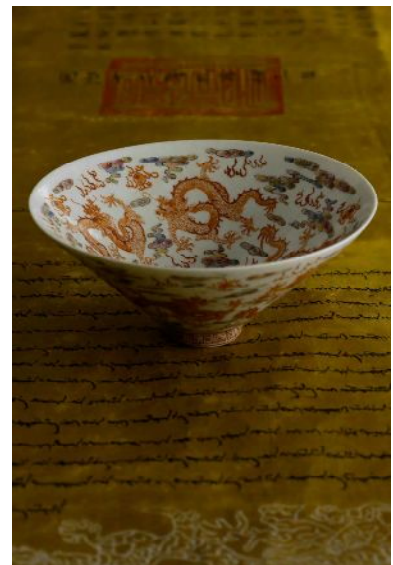
撮影/今泉 慶子



ロマノフ王朝のグラス



清朝末期の鳥籠



乾隆年製の千龍文碗

撮影/久間昌史 『骨董物語』(講談社刊)より